

## 令和4年5月 文書質問及び回答

1 質問者 春日隆司議員

2 質問事項 町有林経営の収支(実態)について

質問の内容・要旨	回答
<p>町有林の収支については、公表されていることとありますが、近々の収支状況をお尋ねします。</p> <p>① 町有林経営は、50ha×60年サイクルを理念としていますが、60年間における(植林・下刈・徐間伐・間伐等の森林整備、原木一時保管、伐採等の経費、そして補助金、売払収入)トータル収支はどうなっているか。 ※金利除外(金利含め把握していれば金利含む) ※基準は例えば1ha又は50ha当り。人件費は除く。 ※樹種はトドマツ・カラマツなど平均値でもよい。</p> <p>② R3年度の町有林経営の収支状況と事業内容はどうか。</p> <p>③ ①改善のために様々な取組を進めているが、今後、何年後にどの位収支改善を図ろうとしているか。</p> <p>④ サプライチェーン化がどの位進んでいるのか。</p> <p>⑤ 原木不足の状況に、町有林材の供給をどのように対応しているか、しようとしているか。</p> <p>⑥ 北海道内で町有林特別会計を設けているところはないか。</p>	<p>① 町有林経営の60年間における収支については、過去5年間の森林整備に係る各種事業ごとに事業費を算定しており「ha当たりプラス55万円」となり、制度資金を含めて再造林が可能となっています。</p> <p>算定に当たり、支出は、カラマツの過去5年間の造林等(下刈り、保育間伐、間伐)、主伐事業費及び木材販売に係る運搬費等(手数料、ストックヤード管理費)とし、収入は、各種補助金、木材売払代金、森林環境譲与税充当額としています。</p> <p>除外した支出は、公有林整備事業債等(起債元利償還金、各種寄付金充当額、町有林管理一般経費(需用費、人件費等)及び金利、林道整備費)です。</p> <p>② 令和3年度の町有林経営の収支につきましては、事業費146,000千円(保育造林、間伐主伐、ストックヤード管理費、木材運搬等経費を含む)、収入153,000千円(各種補助金、木材売払代金、基金繰入金等を含む)となっており、現時点の収支は7,000千円の黒字となる見込みです。</p> <p>③ 町有林の収支改善につきましては、地域林業林産業の活性化及び経営基盤強化を図るために施策を推進しています。一例を申し上げますと、施業の団地化や各種造林補助事業の活用、企業や団体との連携、林業林産業のスマート化などが挙げられます。</p> <p>④ サプライチェーン化につきましては、地域内の事業者間で需要情報や伐採計画の情</p>

報共有を図るため、林業林産業研究会を中心に活動しております。

- ⑤ 原木不足につきましては、作業期の変更や各種作業を前倒して原木を供給しました。また、ストックヤードを活用して融雪期の原木需要に対応いたしました。令和4年度については、補助制度を活用した間伐事業を着実に進めるとともに、主伐事業を対前年比25%増して地域の木材需要に対応いたします。
- ⑥ 町有林特別会計につきましては、北海道（林務局林業木材課等）に調査しましたが、設置している自治体は確認できませんでした。